

北イタリア安全対策情報（2023年4月～6月）

1 治安情勢

当地では、依然として窃盗などの邦人の被害申告が多く発生しています。

4月から6月の間に多かった被害報告は、見知らぬ者が声をかけてきた際にバッグなどのファスナーが開封されて財布などが盗まれる手口です。被害場所はミラノ市内(特に地下鉄や駅)とベネチアが多くなっています。

特にこれからバカンスシーズンに入るため、空き巣、スリ、置引きなどの窃盗犯罪対策に注意を払いましょう。また当地の夏は、熱波による体調不良者等が増加することから、暑い日にはエアコンの使用や水分補給などの対策を十分に行いましょう。

2 日本人被害（件数は当館に届け出のあったもののみを計上）

以下は、犯罪被害の事例をまとめたものです。

- (1) 車上狙い：1件（参考：1月から3月は2件）

被害例：後方から接近してきた男に自転車の籠に置いていたバックを盗まれた。

- (2) 置引き：7件（同：5件）

被害例：レストランで食事中、足下に置いたバックが違うバックにすり替えられた。

- (3) スリ：11件（同：17件）

被害例：ミラノ中央駅で若い女性(背後に2人)に話しかけられた際、リュック在中の財布が盗まれた。

混み合った地下鉄でバックを前方に抱えていたが、何者かにポケットを開けられ財布等が盗まれた。

3 殺人・強盗・誘拐等凶悪犯罪例

日本人以外の被害が発生した事件の一例を以下にまとめます。

- (1) 4月上旬、ミラノ市内サポナーロ通り付近の路上で、男性（25歳）が背後から鋭利な物で刺され死亡しました。
- (2) 5月下旬、ガエ・アウレンティ広場において、イタリア人女性（22歳）が2歳の男の子を腕に抱きかかえて連れ去ろうとしたため、誘拐の被疑事実で逮捕されました。
- (3) 6月上旬、ミラノ市パオロ・サルピ通りの小売店で、覆面姿の強盗犯2人が店主に銃を突きつけ、売上金を奪い逃走したが、ハンガリー人少年（15歳）が逮捕されました。

4 テロ・爆弾事件発生状況、対日感情の変化、本企業の安全に関する諸問題

5月11日、ピエール・ロンバルド通りとバザーリ通りの間で、駐車中のバンに積んでいた酸素ボンベが爆発して大規模な火災が発生し、2人が負傷、住民220人が避難、車12台が焼失しました。

5 対日感情の変化及び本企業の安全に関する諸問題

特になし